

栄えある叙勲受章誠におめでとうございます。

本会相談役の下土井康晴氏（七十三回生）は若くして起業し、多忙な会社経営の傍らで約四十年間手足の不自由な人達や子ども達の支援活動を支え、この度、春の叙勲で旭日単光章を受けられましたのでお知らせします。

春の叙勲 県内130人

春の叙勲が発せられ、県内からは130人が選ばれた。地方自治などの分野で顕著な功績を上げた人をたたえる旭日章が32人、公務などに長年にわたって従事した瑞宝章は88人に贈られる。発令日は20日付。受賞者に喜びの声を聞いた。

自立活動を支援 40年

旭日単光章
 旭日単光章
 福肢体不自由児者協会
 品製造を行う明興産業（神戸市長田区）を切り盛りし
 副理事長
 戸市長田区）
 下土井康晴さん 81
 ながら、約40年、手足の不
 自由な人たちの社会参加や
 子どもたちの自立活動を支



長年の活動を振り返る下土井さん（神戸市長田区で）

褒めてきた。「長年やってきただけ。受賞なんておこがましい」と話す。神戸市出身。高校卒業後、

働きながら大阪経済大の夜間部で経営を学び、起業。協会の仕事は知人に頼まれ、かかわり始めた。「福祉の世帯に貢献したいとの志があったわけではない」と振り返る。

46歳の時に若手経営者らとドイツを訪れ、乗ったタクシートの運転手から朝と晩、ボランティアで肢体不自由者の送迎をしていると聞いた。「健常者の手助けが当たり前のドイツに比べ、日本はすごく遅れている」ことを痛感した。

「行こう」あたり、知り合いの飲食店などに働きかけた。2009年からは、ホーパースで協賛企業の画像をクリックすればその企業が協会に寄付する「クリック募金」事業に尽力。美術館やパザールなどの貴重な運営費となっている。「健常者と比べ、芸術的な感性が多か。素晴らしい絵や書が多いんです」と話す。

阪神大震災をはじめ会社存亡の危機を乗り越えてきた情熱は健在だ。「日本でもボランティア活動が定着した。今後も、企業人として少しでも貢献できたらと思う」。